

女性が輝く 京都企業



若手職員が中心の魅力発信委員会

社会福祉法人 京都総合福祉協会

代表者/岡田 秀人

住 所/京都市左京区下鴨北野々神町26
北山ふれあいセンター内

T E L / 075-702-3730

事業内容/障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業
従業員/475名(うち女性311名)



岡田理事長(右奥)と戸田所長(左奥)、従業員のみなさん

人間力が求められる仕事で 福祉全体の底上げを

「共生」を理念に、現在は京都市内22カ所の事業所で障害児、障害者、高齢者を対象とした幅広い福祉事業を展開している京都総合福祉協会。その出発点は、1950年代にボランティアで障害児療育キャンプに携わったことであった。当初より女性の割合が高く、現在も職員の半分、非正規職員を合わせると3分の2を女性が占める。必然的に仕事や待遇に男女の別がなく、管理職への登用もごく自然に行われている。中には初期からのメンバーで事業所所長まで勤め上げ定年を迎えた女性も。今も主任級以上の管理職の約45%が女性だという。その一人、京都障害者就業・生活センター所長の戸田則子さんは、10年前に中途採用で入社。主任として協会の中核となる「ふれあいセンター」の立ち上げに関わるなどキャリアを重ねてきた。「上下や横のつながりが強く、一人ひとりの職員を支える体制が整っていることに助けられました。家庭と両立しながら働ける制度も充実しています」と穏やかに語る。通常、出産6週間前からとされる産前休暇は8週間前から取得可能。産前・育休の取得率は約9割にのぼる。加えて昨年秋からは参観日などの学校行事に使える「育児目的休暇」も新

設された。「共働きで小さなお子さんのいる男性職員も多いのですが、彼らが制度を利用することで、間接的に働く女性をサポートすることにもなっています」という言葉からも、あたたかな職場のムードが伝わる。

さらに2年前に就任した岡田秀人理事長は、離職率低下を目指して積極的な施策を試みてきた。「私はもともと福祉の業界にいた人間ではないので、支援を受ける側からの発想で、職員にはコミュニケーションスキルを身につけてもらうために何が必要かを考えました」。モチベーションを上げるべく実施された研修の充実や資格取得の推奨、待遇の改善や定期的な意見交換会などの取組は、着実な成果につながりつつある。「人間力が求められる仕事だからこそ、やる気のある人材が安心して長く働いてくれる環境を作りたい。そうすることで、福祉の仕事全体の底上げを図れたらと思っています」。若手職員が中心メンバーとなって「魅力発信委員会」が結成され、外部に福祉の仕事の楽しさを伝える取組も始まった。働きがいの実感は笑顔となって、利用者へ、入社希望者へと広がっていく。これからの福祉業界への希望をつなぐ好循環といえよう。